

日時	2026年5月16日(土) 13時30分～15時20分
場所	板橋区立若木小学校 2F多目的室
出席者	9名(【地域委員】7名、【行政委員】2名)
欠席者	4名
傍聴人	【若木小学校教職員】8名

## 議事内容

### 1 委員長挨拶

委員長は、本会に若木小学校教職員が出席していることを紹介し、オブザーバーとしての参加を承認した。委員長は挨拶に代えて、学校安全の継続的な確認と、学校評価を通じた改善に向けて次の3点を述べた。

#### (1) 交通安全関係

委員長は、はじめに学校安全に関する事項として、中台中学校前の横断歩道の退色について触れた。2025年度第4回CS委員会だより<sup>ii</sup>では、2024年度の「PTA防犯パトロール」において指摘された「中台中学校前の横断歩道が消えかけている点」について、区の報告書に記載がなかったことを取り上げ、その理由について学校側に説明を求めたことを報告している。これに対し、学校側からは、区の報告書に掲載されるのは、本パトロールとは別に実施される「学校・警察・役所による合同点検」で確認された箇所であるとの説明があった。しかし、このような点検の区分は、保護者や地域住民にとって分かりにくいものであり、必要な情報が適切に共有されない要因にもなり得る。そこで委員長は、2025年度の点検・報告においては、当該箇所を適切に扱うよう学校側に依頼していた。しかしながら、結果として報告が漏れ、区の報告書<sup>iii</sup>には記載されなかった。この横断歩道の退色が2年間にわたり改善されないままとなっていることは、児童の安全確保の観点から看過できない。委員長は、学校に対して改めて、こうした安全上の課題を組織的に把握し、確実に関係機関へつなぐ姿勢の改善を求めた。

一方で、この件は学校のみ責任として捉えるべきものではない。近隣住民や中台中学校側からも報告し得る内容であり、地域全体で児童生徒の安全を支える視点が必要である。ただし、本校児童が通学路として利用している場所であることを踏まえ、早急な対応が必要であると判断し、委員長から警察署協議会を通じて改善要望を提出したことを報告した。今後も同様の事案については、学校の組織的な対応に期待するとともに、保護者や地域住民からも担当部局<sup>iv</sup>へ通報するなど、児童の安全確保に向けた協力をお願いしたいと述べた。

#### (2) 新薬の取り扱いについて

次に、委員長は、アレルギー対応に関する新たな情報として「ネフィー<sup>v</sup>」について紹介した。過日、本校の養護教諭ならびに栄養士からの情報提供の中で、従来のエピペンに加え、新たな選択肢としてネフィーについて情報提供があった。これを受け、委員長が追加で情報収集を行ったところ、学校教員向けの研修や研修用キットの調達については、まだ十分に整っていない状況であることが分かった。そこで本委員会では、単回式の練習用キットを用い、使用方法の見本を使いながら、新薬の取り扱いについて確認をした。今後、すべての教職員が本薬の取り扱いについて研修すると聞けが、こうした薬品の取り扱いについても、改めて情報のアップデートを依頼した。

#### (3) 学校評価の意義と実践上の課題について

最後に、委員長は、学校評価に関する資料として増渕(2026)<sup>v</sup>「学校評価の意義と実践上の課題」を示した。同論文は、学校評価が戦後の試案から2000年代以降の制度化を経て、説明責任、開かれた学校づくり、学校改善のための仕組みとして定着してきた経緯を整理したものである。特に、都立学校においては「新宿高校事件」後の信頼回復策として学校評価システムが重視されたこと、また、豊島区立学校や都立高校の事例を通じて、アンケート設問の曖昧さ、「わからない」回答の多さ、分析や改善策の公表不足など、実践上の課題が指摘されていることを紹介した。

同論文では、学校運営連絡協議会委員が「学校関係者評価」の評価者として、学校の自己評価資料、諸活動の観察、改善方策の妥当性を検証する役割を担うことが示されている。本区においては、これに相当する役割をコミュニティ・スクール委員が担うことになる。本日は校長より今年度の学校評価資料が提示されるため、委員長は各委員に対し、単に資料を確認するだけでなく、学校の自己評価が実態を適切に反映しているか、改善策が具体的で妥当なものとなっているかという観点から、確認や意見をお願いした。

## 2 校長より

### (1) 1学期の活動報告（学習・行事・生活）

#### ① 1学期前半の学校の様子について

校長からは、4月に新しい学級、新しい友達、新しい教員との生活が始まり、児童が少しずつ新しい環境に慣れてきていることが報告された。学級全体としてまとまりが見られる一方で、集団で生活する中で個別の支援を必要とする児童の姿も見られることから、スマイルルーム、保健室、校長室等の活用も含め、学校全体で児童を支える体制づくりを進めているとのことであった。

また、授業においては、「めあて」と「振り返り」を大切にし、児童が何を学び、何ができるようになったのかを自分でも確かめられるよう、授業改善に取り組んでいることが紹介された。教員が授業のねらいを明確にし、児童の学びをどのように見取るかを意識しながら、日々の授業づくりを進めているとの説明があった。

#### ② 家庭学習の選択制について

家庭学習については、これまでの一律の課題に加え、児童が自分で課題を選んで取り組む学習も進められていることが説明された。現在は、希望する児童が自分に合った課題を決め、家庭で主体的に学習に取り組んでいる。

一方で、学校から出される宿題には、授業で学んだ内容を補充し、定着を図る役割もある。そのため、教員が関わりながら、どのような学習に取り組むとよいのかを示したり、友達のよい取組を紹介したりすることで、児童が少しずつ自分に合った学び方を身に付けられるようにしているとのことであった。

#### ③ 1年生を支える「チーム学校」の取組

1年生については、入学当初の慣れない学校生活の中で、6年生が朝の支度を手伝うなど、上級生による温かな関わりが見られた。6年生にとっても、最高学年としての自覚を育てる大切な機会となっている。

また、給食配膳では学校支援地域本部(若木応援団)の皆様の協力を得ているほか、学力向上専門員、学校生活支援員、エデュケーション・アシスタント、小1サポーター(新規事業・有期)など、さまざまな人材が学校生活を支えている。担任だけで抱えるのではなく、学校全体、そして地域の力も得ながら児童を見守っていく体制が進められている。

#### ④ 情報安全・ICT・生成 AI の活用

学校では、毎月の安全指導に加え、情報安全に関する指導も計画的に行っている。一人一台端末を活用する時代だからこそ、便利さだけでなく、情報を安全に正しく扱う力を育てることが重要である。

また、端末を活用した音読の録音・提出や、CS委員会からの提唱を受けて昨年度から導入されたタイピングソフトによる技能向上など、ICTを効果的に活用した学習も進められている。さらに、今年度は生成 AI の活用についてもパイロット校 2 年目として取組を進めており、教員の業務改善や教材作成などへの活用が検討されている。

### (2) 学校評価について

今年度の学校評価について、校長から説明があった。区の教育振興計画が新しくなったことを受け、学校評価の項目にも一部変更が加えられている。特に、学力や体力だけでなく、児童の心の育ち、自尊心や自己肯定感をどのように見取っていくかについても考えていく必要がある。児童が安心して学校生活を送り、自分らしさを発揮できるよう、学校・家庭・地域で引き続き見守っていくことが大切であることから、こうした視点を評価項目に加えたとのことであった。

これに関連して、委員からは、家庭学習の自主選択制を含め、保護者・地域と連携しながら、児童一人一人の実態に応じた教育活動の充実を図る視点を、学校評価の項目に加えることが望ましいとの意見が示された。

また、教員研修の実施状況についても意見が出された。昨年度の評価において、命令出張以外での研修に関する項目が比較的低い結果であったことを踏まえ、校外の研修に限らず、校内における指導教諭等の授業参観や OJT も、教員の大切な学びの機会として位置付けることができるのではないかととの意見であった。

本校には、体育や特別活動などに専門性を有する教員がおり、実際に他校の教員が授業を参観に来るような優れた実践も行われている。こうした校内の実践を本校の教員自身が学ぶことは、授業力の向上にとって大きな意味をもつ。遠方の研修に出向くことだけが学びではなく、身近にある優れた実践を見て、そこから学び合うこともまた、重要な研修である。

一方で、この評価項目については、単に数値を上げるために評価のハードルを下げるべきではないとの意見もあった。校内での指導教諭の授業見学や OJT は大切にしつつも、評価項目に当てはまる

かどうかにとらわれるのではなく、教員一人一人が広く学び続ける姿勢を大切にしてほしいという趣旨である。

奈須(2025)は、教育方法を料理になぞらえ、質の高い学びを実現する優れた指導方法は、おいしく栄養のある料理を生み出す方法が数多くあるのと同じように、多様に存在するという趣旨を述べている。実際、料理の腕を磨くためには、よい料理を味わい、本物に触れることが欠かせない。同じように、教員にとっても、よい授業や優れた実践を見ることは、自らの授業を見直す大切な機会となる。奈須氏の「教育方法を料理のアナロジーで考える」<sup>vii</sup>という論考は、『内外教育』にも掲載されている。

今回の意見交換を通じて、教員研修を「校外に出向くもの」と限定的に捉えるのではなく、校内外を問わず、よい実践や本物から学ぶことの重要性が確認された。評価項目の達成そのものを目的化するのではなく、児童のよりよい学びにつながるよう、教員が互いに学び合い、外にも内にも学びを求めていくことが期待される。

### 3 各委員より

#### (1) 学校司書の配置体制と学校図書館運営について

委員から指摘のあった学校司書の配置体制や勤務条件の問題について、校長から説明があり、今回の CS 委員会において学校図書館運営に関する現状が共有された。

現在、受託業者において学校司書に関する求人が継続的に行われている状況も見受けられる。そのため、勤務条件や採用要件の面から、学校図書館運営に必要な専門性や継続性が十分に確保されるのかについて、懸念する意見が出された。

学校図書館は、児童の読書活動の推進にとどまらず、授業における調べ学習、情報活用能力の育成、学習支援等において重要な役割を担っている。また、学校司書や司書教諭の配置が充実することは、図書整備や資料準備等に係る教員の負担軽減にも資するものと考えられる。

文部科学省においても、「学校司書の専門性等がより発揮できるよう、継続的・安定的に職務に従事できる環境への配慮の上、司書教諭の授業負担の軽減と合わせて学校図書館の人的整備の拡充を図るようお願いします」<sup>viii</sup>と示しており、学校図書館運営における人的体制整備の重要性が示されている。しかしながら、現状のままでは、学校図書館運営に関する業務の一部が実質的に教員側へ転嫁される可能性もあり、結果として学校現場の負担増加につながるものが危惧される。

このため、CS 委員会としては、若木小学校における学校図書館機能及び教育活動のさらなる充実のため、専門性と継続性を備えた学校司書配置の確保、勤務体制の改善、必要な人的支援の拡充等について、区教育委員会において検討いただけるよう要請することとした。

#### (2) 70 周年に向けて

若木小学校は、2 年後に 70 周年を迎える予定である。式典、児童集会、記念誌など、具体的な内容は今後検討されていく。来年度から準備委員会を立ち上げることも視野に入れ、今年度中に方向性を整理していくことが確認された。地域とともに歩んできた学校の歴史を振り返りながら、児童にとっても心に残る周年行事となるよう、今後も CS 委員会として確認をしていきたい。

#### (3) 各委員からの情報共有について

これまで CS 委員会では、学校支援地域本部の活動等について、委員から「よい取組を行っているのであれば、もっと紹介し、共有していくべきではないか」との意見が出されてきた。この点については、以前からも同様の意見があり、CS 委員会では、連絡や報告のある委員に対して、委員会内で発言する機会を設けるようにしてきたところである。一方で、毎回必ずしも報告事項があるとは限らず、形式的に同じ内容を繰り返すことは、かえって会議の実質を損なう場合もある。しかしながら、学校支援地域本部をはじめとする地域の活動は、学校を支える重要な取組であり、その意義や具体的な活動内容が十分に共有されていなければ、関係者の理解や協力の広がりにつながりにくい。また、今後は後継者の確保といった課題も想定されることから、現在の活動を誰に、どのように引き継いでいくのかという視点も重要である。

そのため、単なる報告の有無にとどまらず、活動の目的、成果、課題、今後必要となる人材や協力体制について、必要な時期に積極的に情報発信していくことが求められる。特に、次の担い手を育てていくためには、活動の見える化を進め、関心をもつ保護者や地域の方が参加しやすい状況をつくることが大切である。

他校の例では、報告の機会が固定化されることで、毎回同じ内容を述べざるを得ないケースもあると聞く。そのため、本委員会では、形式的な報告を重ねるのではなく、必要な委員が、必要な情報を、必要な時に適切かつ積極的に発信していくことを基本とすることを、今回改めて確認した。また、本校 Web ページ等も活用しながら引き続き、各委員から情報発信されることを期待したい。

#### 4 熟議「子どもたちの挨拶の現状と今後の方策」

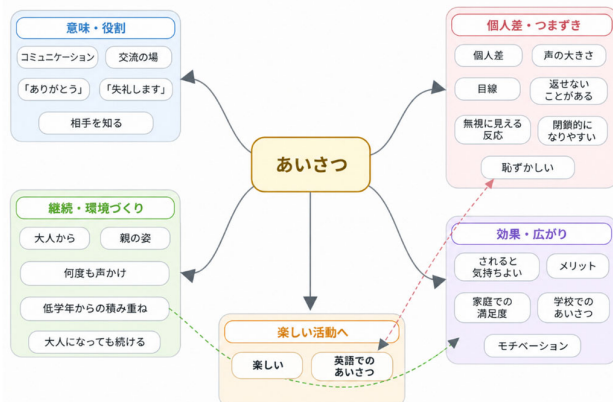
今回の熟議では、「あいさつ」をテーマに意見交換を行った。委員ならびに教員からは、低学年のうちから大人が率先してあいさつをすること、あいさつを返してもらううれしさを児童が実感できるようにすること、委員会活動や児童会活動として児童自身があいさつ運動を企画できるようにすることなど、さまざまな意見が出された。

また、小中連携の取組として、中学生の生徒会と一緒にあいさつ運動を行う案や、保護者・地域の方にも登下校時に声をかけていただく案も出された。あいさつは、単なる形式ではなく、人と人をつなぐコミュニケーションの第一歩である。あいさつの習慣づくりには家庭教育の影響が大きいものの、その意味やよさを児童に伝え、学校生活の中で実感させていく役割は学校にもある。今後も、児童が無理なく、気持ちよくあいさつできる環境を、学校・家庭・地域が一体となって醸成していくことが望まれる。

なお、教員はこれまでさまざまな地域や学校での勤務経験を経て本校に着任しており、今回の熟議では、それぞれの経験に基づく実践例も委員とともに共有された(例:左下図)。例えば、外国語であいさつをしてみることで、普段はあいさつをしづらい児童も、楽しい雰囲気の中で自然に声を出せるようになるのではないかという意見があった。写真は、CS委員会後、教員が見本として早速提示してくれたものである(右下図)。当該教員によれば、他の教員からも「自分もやってみる」と、すぐに賛同してカードを作成する動きがあったとのことである。

これまでのCS委員会においても、「まずはやってみる」<sup>viii</sup>という姿勢を大切にしてきた。今回のように、話し合いで出された意見をすぐに行動へ移そうとする姿は、大変心強いものである。今後は、個々の実践を学校全体の取組としてどのように位置付け、広げていくのかを検討した上で、具体的な行動につなげていただきたい。

なお、前々校長時代には、本校の特色として「語先後礼」を心掛ける児童の姿が紹介されていた。こうした日本特有のあいさつ文化も大切にしつつ、児童が将来大人になった際に、進学や就職を含めたさまざまな場面で円滑な人間関係を築くことができるよう、コミュニケーションの基礎となるよい習慣を身に付けさせていくことが期待される。



あるグループの板書より



会議後に作成された試作プレート

#### 5 副校長より

副校長が別件対応中であつたため、教務主幹教諭が謝辞を行った。

#### CS 委員会年間予定について

年間予定は以下のとおりである。

第1回 ~~令和8年04月02日(木)15:50~16:45~~

第2回 令和8年05月16日(土)13:30~15:00 ※午前土曜授業

第3回 令和8年09月17日(木)15:15~16:45 ※前期評価について

第4回 令和8年10月14日(水)※学びのエリア合同 会場:中台小(時間調整中)

第5回 令和8年11月28日(土)15:15~16:45 ※学校評価 ※AM 学習発表会

第6回 令和9年01月23日(土)13:30~15:00 ※次年度の経営方針について ※AM 土曜授業

配布資料	<b>【学校側配布資料】</b> (1) 令和 8 年度 第 2 回若木小コミュニティ・スクール委員会 次第 (2) 令和 8 年度 第 2 回 CS 委員会ハンズアウト (3) 令和 8 年度 板橋区立学校経営計画表・自己評価表・学校関係者評価表 (4) チーム若木 2026(教職員一覧) (5) 委員資料「学校評価の意義と実践上の課題」		
作成者	CS委員長	確認者	校長

i 2025 年度 第 4 回 板橋区立若木小学校 CS 委員会日より

<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/17492374>

ii 板橋区 通学路の合同点検結果

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kyoikuiinkai/chiiki/tenken/index.html>

iii板橋区 通報(道路)について <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/douro/iji/1055588.html>

iv ネフィー サイト <https://www.neffy.net/> 教職員向けサイト <https://www.neffy.net/teacher/>

v 増淵(2026) 学校評価の意義と実践上の課題—都内公立学校における学校評価を事例として— 帝京大学教職センター紀要第 2 号, pp.95-114

[https://drive.google.com/file/d/1jbg4e7iSvnpWfpIUuDorcHOaFICWL4i/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1jbg4e7iSvnpWfpIUuDorcHOaFICWL4i/view?usp=drive_link)

vi 奈須(2025) 子供のための授業づくり(第 57 回)教育方法を料理のアナロジーで考える

<https://cir.nii.ac.jp/crid/1520025098946550528>

vii 文部科学省(2022) 第 6 次「学校図書館図書整備等 5 か年計画」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/dokusho/link/mext\\_01751.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/mext_01751.html)

viii 「2022 年度第 2 回 板橋区立若木小学校 CS 委員会日より」【column3】では、「格差に臆することなくまずはできる教員が取り組み、学校全体のボトムアップに努めてほしい。」としている。

<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/4213393>

また、「令和 3 年度 第 1 回 板橋区立若木小学校 CS 委員会日より」欠席連絡フォームを導入する際にも、「全校一斉にスタートせず、高学年だけや 6 年生だけなどまずは実験的に上位学年から試行し、本格導入するとよい。」としてきた。

<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/4213387>